

2019年度「生活者としての外国人」のための日本語教室空白地域解消推進事業 地域日本語教育スタートアッププログラム 報告書

団体名 山陽小野田市国際交流協会 (都道府県：山口県)

1. 当該地域の情報 (2019年 12月現在)

地域の課題	本市は平成17年に小野田市と厚狭郡山陽町の1市1町が合併してできた市である。現在、旧小野田市地域(以下、小野田地区)に日本語教室が1つあるが、旧山陽町地域(以下、山陽地区)には設置されていない。本市の在住外国人は市内に散在しており、日本語学習希望者が市内唯一の教室へ通おうにも、曜日や時間帯、場所、交通手段などの問題で通えないことも多い。また、小野田日本語教室の日本語学習支援者も高齢化が進み、新たな支援者の確保も困難になってきている。
在住外国人数 外国人比率	山陽小野田市人口 62,388人 外国人人口 823人 比率 1.31%
在留外国人の 状況	【主な国籍】 韓国(305)、ベトナム(165)、中国(155)、インドネシア(67)、フィリピン(28)、タイ(28) ※()内=人数 【在留資格】 特別永住者(307)、技能実習2号口(171)、技能実習1号口(145)、永住者(55)、技能実習3号口(35) 【滞在年数・在留期間などの状況】 永住者や特別永住者が多く、住民となつてからの年数がかなり長い人も多い。技能実習生も多く、数年で入れ替わりが激しい。
在住外国人の 日本語教育の現状	本市の在住外国人のうち半数は、現在は特別な日本語教育をほとんど要さないオールドカマーが占めているが、日本の国際化が進むにつれて、本市でも外国人就労者や技能実習生、国際結婚で来日した配偶者、外国につながる子供たちが増加しており、日本語学習の需要が高まってきている。義務教育機関に属する外国につながる子供のうち、入学時に日本語学習未習の児童・生徒については、学習支援ボランティアが配置されることがあるが、体制は整っていない。高校生や大学生、技能実習生は必要に応じて所属機関で日本語研修を受けている人もいるが、対応が十分ではないところもある。小野田地区に市内唯一の日本語教室があり、ボランティアによる支援者で運営されている。日本語学習を希望する人なら誰でも受け入れ、学習支援や国際交流を行っている。しかし、教室の存在をそもそも知らない、知り得ても通えない学習希望者も多く、通えていても支援が十分ではないことも多い。ここ数年、教育機関や企業、日本人の配偶者や保護者から、学習相談を受けることも多くなり、需要が高まっていることが伺える。同教室には山陽地区からの学習者も訪れている。

2. 事業の内容

本プログラム取組年数	1年目			
事業の目的	市内、特に山陽地区に散在する外国人住民のために、日本語学習や地域の人たちと交流する機能を備えた日本語教室を開設し、地域社会からの孤立化を防ぎ、多様な背景を持つ人が安心して、楽しく生活できる多文化共生のまちづくりを目指すことを目的とする。			
事業の概要	<p>今年度は現状把握や意識啓発及び人材発掘について重点的に活動した。</p> <p>【ニーズ調査】 外国人住民や日本人住民、市内の企業にアンケート調査を実施し、ニーズや現状の把握を行った。</p> <p>【意識啓発・人材発掘】 外国人住民に対する日本語学習支援や外国人住民と日本人住民の相互理解の支援者を発掘・育成する「多文化共生サポーター講座」を開催した。年度末となる2月には「多文化共生セミナー」を開催し、「やさしい日本語」をテーマに市内外より約50名の参加者があり、多文化共生についての周知や意識啓発を行った。</p> <p>【先進地視察】 他市の日本語教室を2か所視察し、教室の形態や運営方法等について意見交換を行い、今後山陽小野田市に設立する日本語教室について考える上での参考とした。</p>			
事業の対象期間	2019年4月～2020年3月			
前年度の実績 (2年目以降の 団体のみ記載)				
担当コーディネーター	氏名	所属	職名	担当する役割
	芝崎 理恵	小野田日本語教室	代表・講師	ニーズの把握や関係機関との調整、日本語教室のカリキュラム・学習教材の作成
	當房 詠子	下関市外国人に日本語を教える会	講師	人材の養成・研修の企画・実施、日本語教室のカリキュラム・学習教材の作成
	江本 明夫	小野田日本語教室	講師	日本語教室における学習環境の整備、進捗状況確認
担当アドバイザー	氏名	所属	職名	継続・新規の別
	井上 洋	(一財)ダイバーシティ研究所	参与	新規(1年目)
	堀 永乃	(一財)グローバル人材サポート浜松	代表	新規(1年目)
	仙田 武司	(公財)しまね国際センター	課長	新規(1年目)

3. 日本語教室の設置に向けた検討体制

(1) 地域における日本語教育の実施に向けた検討体制

検討体制			<p>コーディネーターと市国際交流協会とで運営委員会を組織し、外部有識者であるアドバイザーの助言・指導のもと、地域における日本語教育の実施に向けて検討を行った。</p> <p>現状把握に必要となる調査及び情報収集や課題の共有、今後の方針について話し合い、地域に合った日本語教室の開設や多文化共生イベントなど、多文化共生に向けたよりよいまちづくりへの取り組みについて考えた。</p>
	所属（担当課）	担当者名	職名
コーディネーター	芝崎 理恵		
コーディネーター	當房 詠子		
コーディネーター	江本 明夫		
山陽小野田市国際交流協会事務局（市市民生活課）	藤山 雅之	事務局長	
山陽小野田市国際交流協会事務局（市市民生活課）	三浦 裕	事務局員	
山陽小野田市国際交流協会事務局（市市民生活課）	田島 優希	事務局員	

(2) 日本語教室の実施に向けた事業運営体制図

地域の機関・団体との連携体制	<p>コーディネーター、市国際交流協会を中心に、協力機関と連携を図りながら多文化共生社会の拠点となるような日本語教室の開設に向けて意見交換や情報共有に取り組んだ。</p>		
	<p>【人材発掘・育成】 山口東京理科大学</p> <p>【国際交流事業・多文化理解講座等のノウハウ共有】 山口県国際交流協会</p> <p>【外国人への情報発信や情報共有】 山陽商工会議所、小野田商工会議所、 山口県外国人技能実習生受入組合連絡協議会</p>		
組織・団体・機関名	担当部局	職名	担当者名
山陽小野田市立山口東京理科大学		学長	森田 廣
山陽商工会議所		会頭	田中 剛男
小野田商工会議所		会頭	藤田 敏彦
山口県国際交流協会			田中 沙織
山口県外国人技能実習生受入組合連絡協議会		会長	西山 一夫

4. 具体的な取組内容

(1) 年間を通じた取組内容

年月	主な取組内容	コーディネーターの主な活動	アドバイザーの来訪
2019年 4月	・コーディネーター会議（顔合わせ及び事業計画書の素案作り）	・事業計画書の検討	
2019年 5月	・アドバイザー会議（キックオフミーティング） ・事業計画書作成・提出	・事業計画書の検討及び修正	★事業計画書について助言 井上アドバイザー 堀アドバイザー 仙田アドバイザー
2019年 6月	・コーディネーター会議（ニーズ調査及び多文化共生サポーター講座について協議） ・先進地視察（広島県江田島市の日本語教室視察）	・ニーズ調査素案作り ・多文化共生サポーター講座の開催について検討 ・江田島市日本語教室の視察	
2019年 7月	・アドバイザー会議（ニーズ調査について協議）	・ニーズ調査アンケート内容及びアンケート方法について検討	★ニーズ調査内容・方法について助言 井上アドバイザー 堀アドバイザー 仙田アドバイザー
2019年 8月	・ニーズ調査準備（アンケート項目について協議）	・ニーズ調査アンケート項目の検討及び修正 ・多文化共生サポーター講座準備	
2019年 9月	・多文化共生サポーター講座（土曜日計3回開催） ・コーディネーター会議（ニーズ調査の実施について決定）	・多文化共生サポーター講座運営（講師：当房コーディネーター） ・ニーズ調査アンケート項目最終打合せ	
2019年 10月	・コーディネーター会議（ニーズ調査多言語化について協議、総社市日本語教室視察に向けて準備）	・先進地視察について打合せ（岡山県総社市） ・外国人向けニーズ調査の多言語化について検討 ・多文化共生サポーター講座振り返り	
2019年 11月	・ニーズ調査多言語化（外国人向け） ・ニーズ調査（日本人向け、企業向け）	・多言語化に向けて翻訳作業 ・ニーズ調査及び企業訪問	
2019年 12月	・先進地視察（岡山県総社市の日本語教室視察） ・コーディネーター会議（ニーズ調査の進捗状況確認、2月開催予定の多文化共生セミナーについて協議） ・ニーズ調査の集約	・総社市日本語教室の視察及び意見交換 ・ニーズ調査の経過報告 ・多文化共生セミナーについて時期や内容について検討	
2020年 1月	・コーディネーター会議（ニーズ調査について協議） ・令和2年度提案書提出 ・ニーズ調査の集約	・今年度のニーズ調査の成果について振り返り ・提案書の作成	
2020年 2月	・アドバイザー会議（今年度の活動報告と来年度の予定について協議） ・多文化共生セミナー（“やさしい日本語”について） ・関係機関訪問	・今年度行った活動内容についてまとめ ・多文化共生セミナー準備	★関係機関との意見交換 ★提案書を基に今年度の振り返り及び来年度に向けて助言 井上アドバイザー 堀アドバイザー 仙田アドバイザー
2020年 3月	・コーディネーター会議（課題と来年度の計画について協議） ・報告書提出	・今年度の成果及び課題について協議 ・来年度へ向けて計画内容の検討	

(3) その他関連する取組

取組名称	実施期間	内容
多文化共生サポーター講座	2019年9月 7日 13:30~15:30 2019年9月21日 13:30~15:30 2019年9月28日 13:30~15:30 (全3回)	地域に住む外国人住民への日本語教育の支援方法や、コミュニケーションの取り方について学ぶ講座を全3回開催した。講師は本プログラムのコーディネーターが勤め、各回で10名ほどの参加者があった。 第1回「山陽小野田市で“多文化共生”をめざそう」 第2回「“多文化共生サポーター”としての基礎知識と話し方」 第3回「“多文化共生サポーター”としてできること」
外国人住民のための冠婚葬祭マナー講座	2019年9月14日 13:00~16:00	山口県国際交流協会の主催事業で、市と協力して開催した。本プログラムのコーディネーターが講師を務め、筆ペンや御祝儀袋など実物を使いながら、結婚式及び葬式での日本のマナーを学ぶと同時に、外国人住民同士の交流の場にもなった。また、「多文化共生サポーター講座」の受講者も本講座に参加して、活動のサポート体験をすることができた。
多文化共生セミナー ～外国人に伝わる“やさしい日本語”を使おう～	2020年2月7日 13:30~15:00	仙田アドバイザーを講師に迎え「やさしい日本語」について学ぶセミナーを開催した。市役所職員や外国人を雇用している市内の事業所の従業員など市内外から約50名が参加した。「やさしい日本語」の作り方を学んだり、参加者が実際に「やさしい日本語」を使って会話する場面もあった。「やさしい日本語」について少しずつ理解を広めていくきっかけになった。
市国際交流協会との連携 ①バスツアー ②世界の料理教室	①2019年11月10日 ②2020年 2月15日	①では市内の外国人住民と日本人住民が参加するバスツアーにおいて、多文化共生サポーター講座の受講者も参加し、日本の観光地の紹介をしたり交流の輪が広がった。交流の中で、日本語教室に興味を持つ人の発掘にもつながった。 ②においては、市内の外国人住民を講師に招き、出身国の文化と料理の紹介をしていただき、異文化理解の意識啓発や国際交流につながった。

【主な活動】



多文化共生サポーター講座
第1回目(9/7)の講義の様子



冠婚葬祭マナー講座(9/14)にて、御祝儀袋の記入の仕方について学んでいる様子



多文化共生セミナー(2/7)
の様子

5. 今年度事業全体について

進捗状況	関係機関への事業説明や先進地視察の時期は、当初の予定とは異なる時期になったが実施することができ、その他の予定していた活動内容については概ね計画通りに進んだ。ニーズ調査については、日本人、企業、外国人に向けて行っているが、外国人への調査は目標とするところまで進んでいないため、来年度も継続して進めていく。
成果	<ul style="list-style-type: none"> ・ 2か所の先進地（江田島市・総社市）の日本語教室の視察をし、教室の運営方法や、コーディネーターや職員の役割分担などについて意見交換することができ、これから山陽小野田市に教室を作る上での参考になった。 ・ 日本語教育や地域住民同士の交流などに対する意識を検証するためにニーズ調査を実施した。調査の途中経過を見ると、日本人の中には日本語教室に関わってみたい、教室を見てみたいと思っている人が少なからずいることがわかった。今年開催した講座やセミナーに加え、日本人と外国人と一緒に活動できるようなイベントを来年度開催し、引き続き人材発掘と育成につなげていきたい。 ・ 講座の参加者で、市国際交流協会のイベントに参加した人もおり、実際に市内の外国人住民との交流につながる機会になったり、国際交流や多文化共生の意識付けなど、今後につながるような取組ができた。
地域の関係者との連携による効果	市内の大学に本プログラムについて説明をし、在学中の留学生・学生への情報提供及び協力を得た。また、商工会議所及び山口県外国人技能実習生受入組合連絡協議会からも市内の企業に対し事業の周知や情報発信の面で協力を得た。市民全体への事業に関する周知を広げ、引き続き支援の輪が広がることが期待できる。また、山口県国際交流協会と共催で外国人対象の講座を開いたことで、市内だけではなく近隣地域の外国人参加者も呼び込むことができた。今後も継続して、県協会と市協会とで連携を図り、イベント開催を検討していくこととなった。
コーディネーターの主な活動	<ul style="list-style-type: none"> ①ニーズ調査（41H） ②多文化共生サポーター講座の開催（16H） ③先進地の視察（15H） ④その他（25H） （関係機関訪問、事業計画や提案書内容検討）
アドバイザーの主な助言	<ul style="list-style-type: none"> ・ 関係団体や企業との連携をとり、日本語教室運営や多文化共生を進める体制の確立を行うこと。 ・ 市内の外国人の状況やニーズを調査し、情報収集をすること。 ・ 市内の課題を分析すること。教室の将来のビジョンをを考えながら、地域の体制に合った形の教室を作ること。 ・ 他市の先進事例の紹介。 ・ 本事業の取組状況を市民や関係者へ広く周知すること。 ・ 本事業を進める上で、事業に当事者（支援者・外国人住民）の参加を進めること。
今後の課題	<ul style="list-style-type: none"> ・ スタートアッププログラムの取組に関する市民への周知。 ・ 外国人向けのニーズ調査が遅れており、外国人のニーズや関心が不明確なので、調査を進めてプレ教室開設の参考にする。 ・ 教室の運営への協力者・支援者が不足しているため、講座や交流イベントの開催を通じて市民への多文化共生への意識啓発を行いながら人材発掘及び育成につなげる。 ・ 教室開設後の具体的な運営や支援の体制についての検討。
今後の予定	<p>日本語教室定期開催に向けて体制を整え、準備を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ プレ教室の開催（アンケート調査の結果や外国人、サポーターの意見をもとに山陽地区での日本語教室を試行する。年度末までに定期開催につなげたい。） ・ ニーズ調査の継続（外国人向けを重点的に行う） ・ 講座や交流イベントの開催（日本語教育や地域住民同士の交流促進を支援するサポーターの養成や意識啓発、外国人向けの教養講座 等） ・ 人材発掘及び人材育成（市内の日本語教育や、外国人住民と日本人住民の交流を支援してくれるサポーターの発掘・育成） ・ 支援者及び外国人住民との意見交換会の開催

本件担当 : 山陽小野田市国際交流協会事務局（山陽小野田市役所市民生活課市民生活係）